

## 総合的リスク管理

### JA事業改革②

リスクの本質が将来キャッシュフロー（現金収支）の変動額であるとする、将来キャッシュフローの改善を行い、増やしていけば当然のことながらリスク量は低減する。また、将来キャッシュフローを増やすことはリスクの低減と同時に、将来にわたる利益の水準を増やし、安定収益の実現に寄与することになる。

リスクを可視化して将来キャッシュフローをコントロールすることがリスクコントロールの本質である。JAの総合的リスクマネジメントの場合、信用事業では将来生じる可能性のある最大限の損失額を、経済事業では将来の損益

このようにJAの総合事業に対応した総合的リスクマネジメントでは、リスクテイクが経営体力の範疇（はんちゅう）に収まっているか（経営の継続性の確認）リスク量の（限度管理）、リスクを適切に取得してキャッシュフローの獲得を安定的に行えるよう（安定収益の確保）、経営判断を行っていくことがリスクコントロール、リスクマネジメントの本来的な役割といえる。

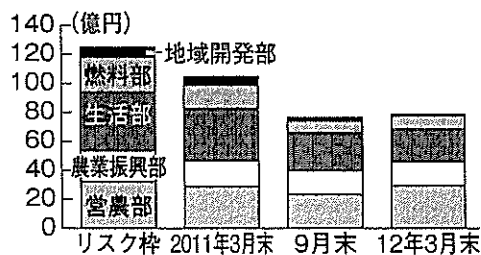
## 部門ごとに限度枠を

### 将来収支コントロール

の悪化と投資回収ロスを「将来キャッシュフローの変化」として数値化できるリスク量としている。

リスクがなくて収益を獲得できればよいが、リスクを取らなければリターンは得られない。自己資本や経営体力で処理できるリスク量の範囲で、適切にリスクテイク（危険を冒すこと）を行っていくことがリスクコントロールといえる。

経済リスクの内訳



※実際のJAの経済事業リスク管理図

取得できるリスク量に限度枠を設けて、その限度を超える場合には改善対策を構築することが重要になる。経済事業でいえば、将来の損益の悪化や投資の失敗による減損リスクを早期に認識し、改善や回避をして将来の安定収益を実現していくことになる。

（協同経済経営研究所専務・加島徹）